

赤谷プロジェクトにおける「赤谷の日」のサポーター活動について

関東森林管理局 赤谷森林ふれあい推進センター

はじめに

関東森林管理局赤谷森林ふれあい推進センターでは、日頃よりニホンシカの低密度管理のための対策、イヌワシの狩場の創出、自然林の復元、溪流環境における生物多様性の復元、森林環境教育、イベントの開催など様々な取組を行っております。今回は、「赤谷プロジェクト」とその一つである「赤谷の日」について紹介します。

赤谷プロジェクト

2003年11月に発足した「赤谷プロジェクト」は、群馬県みなかみ町の北部、新潟県との県境に広がる約1万ヘクタールの国有林「赤谷の森」を舞台に、地域住民で組織する赤谷プロジェクト地域協議会、公益財団法人日

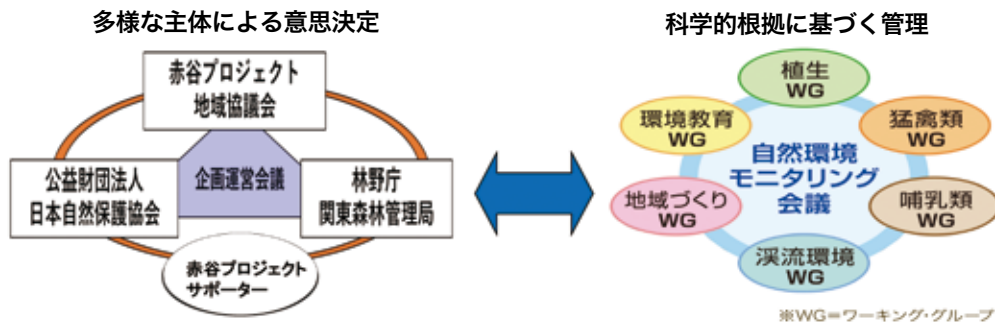


図1 「赤谷プロジェクト」の仕組み

管内概要

「赤谷の森」は、群馬県みなかみ町の北部、新潟県との県境に広がる、標高600m～2,000mに位置する約1万ヘクタールの国有林です。ブナ・ミズナラなどの原生的な自然林、炭焼きなどに利用してきた二次林、スギやカラマツの人工林など、植生は多様です。本州に生息する中・大型哺乳類のほぼ全てが見られ、食物連鎖の頂点に位置し、生物多様性の指標となるイヌワシやクマタカといった猛禽類も確認されています。「南ヶ谷湿地」には、希少種の生息が確認され、また県境の稜線部には、高山植物が多数見られるほか、谷川連峰や赤谷の森の絶景を楽しむことができます。



基礎データ

所在地	群馬県沼田市鍛冶町 3923-1
赤谷の森	9,509.64ha (国有林)
関係県・自治体	群馬県利根郡みなかみ町



図2 サポーター募集の案内

赤谷プロジェクトは、森林をはじめとする自然環境に、人々が広く主体的に関わることを目指しており、赤谷プロジェクトの理念に共感し、その推進に協力してくださる方、ボランティアな立場でプロジェクトの活動に加わってくださる方、公益を担う意識を持って活動することを自覚してくださる方を重要な構成員・サポーターと位置付

赤谷プロジェクト・サポーター

本自然保護協会、関東森林管理局の3つの組織が協力して、「生物多様性の復元」と「持続的な地域づくり」を進める取組です(図1)。実施に当たっては、科学的根拠に基づく森林生態系の管理を目指し、専門家からなる複数のワーキンググループと全体の方針を決める自然環境モニタリング会議を組織しています。



赤谷の日



け、参加いただいています(図2)。通常、人は、日々のくらしの中で自然と深く触れることはありません。また、森林のような複雑で多様なものには、専門的な知識や経験が必要なことも多いので、専門家の指導を受けて、様々な考え方や価値観を持ったサポーターが、気軽に参加し、また自ら企画して活動する、そのような「場」や「機会」を提供することが重要と考えています。

赤谷プロジェクトでは、サポーターの取組の一つとして、毎年3月から12月(冬期を除く)の毎月第1週の土・日曜日を「赤谷の日」と名づけ、赤谷プロジェクト関係者とサポーターによる協働の活動を行っています。主な活動は、拠点である「いきもの村」を中心とした施設の環境整備や伝統技術の体験、動植物の調査などです。当センターを含むプロジェクトの3つの組織が交代で活動の運営を担当しています。

2021年は、「いきもの村」の環境整備のほか、炭焼

「赤谷の日」活動の様子



4月 クロサンショウウオの卵塊調査



5月 三国山シカ防護柵を設置



7月 南ヶ谷湿地のアシ刈、昼食の様子



11月 ムササビの巣箱修理



12月 イヌワシの観察会



12月 桐の保護ネットを設置

き体験用の窯の改修、試験的な桐の育成、ニホンジカの植生への影響調査とその対策、ノウサギの生息数推定調査、ホンドテンの食性分析調査、南ヶ谷湿地の保全活動とその周辺の動植物の調査など、様々な活動を行いました。特

に後の2つは、サポーターの皆さんが自主的に企画されたものです。しかし、残念ながら新型コロナウイルス感染症対策のため、2020年度以降の赤谷の日の活動は大幅な縮小を余儀なくされました。今後は、この事態が収束することを願いつつ、サポーターの新規募集を進め、より魅力的な活動になることを目指して引き続き取り組んでいきたいと考えています。

※日々の活動はウェブサイトに掲載しておりますので是非ご覧ください。
https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html

